

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572307601		
法人名	有限会社 キクチ縫製		
事業所名	グループホームけやき(A)		
所在地	秋田県南秋田郡八郎潟町夜叉袋字中羽立74-10		
自己評価作成日	令和3年2月2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和3年2月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「その人らしさを大切に寄り添い支援する」という設立当初からの理念を大切に介護を行っています。入居者様の希望や今までの生活習慣を尊重し、理念に基づき職員が自分で考え、臨機応変にできる限り対応できるよう日々努力しています。暖かく家庭的な雰囲気も設立当初から大切にしてきました。また、入居者様を第一に考えながら、職員の負担も軽減できるよう、入居者様の状態や介助の仕方を共有し、その時々々の状態にあわせ業務内容や時間の変更など、相談しながら行っております。コロナウイルスの影響で、面会や外出が制限される中、できる限りではありますが、散歩や季節に合わせたドライブなどで気分転換を行い、夏祭りやクリスマス、敬老会も例年通りとはいきませんでした。プレゼントや食事を中心にいつもと違う雰囲気を味わって頂けるようにと職員が企画して行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議には、家族、民生児童委員、教育委員会委員、老人クラブ、認定こども園、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、障害サービス事業所、消防、警察が出席している。町の給水ポンプが停電時に機能停止に陥るとい地域の実情を踏まえ、ホームの電気工事で配電を停止したことを機に、停電時を想定した調理訓練や断水時のトイレの流し方も訓練している。調理場はガス調理と電磁調理に分かれており、停電や地震の際にも調理が出来る利点があるとのこと。有給休暇や勤務交代を活用しやすい職場であり、職場定着率も高い。スタッフ間で理念を再確認するため、内容を掘り下げ、分かりやすい3項目を追加したことにより、職員間で浸透・周知するための内部研修にもなった。フェイスブックを活用し、行事やレクリエーション等日々の様子を毎日更新している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしさを大切に寄り添い支援する」を理念として掲げ、職員で共有し、実現に向け日々努力をしながら皆様と過ごしている	開設から1～2年経過した時点でホームの理念を作成したとのこと。5～6年前の認知症介護実践リーダー研修で学んだスキルを活用し、スタッフ間でホーム独自の理念を再確認する意味で、その内容を掘り下げ、更に分かりやすい3項目に編成し追加している。この流れが職員間で理念を浸透、周知するための内部研修にもなった。編纂された理念は、誰からも見やすい廊下の他、ホーム内各所に掲示されていた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者様のADLの低下等により、地域行事への参加は思うように出来ない事も多く、今年度は、コロナウィルスの影響で、幼稚園やボランティアとの交流も中止したが、認知症カフェには参加することができた	八郎潟認定こども園の園児が3月に遊戯を披露しに訪問してくれる。敬老会では各種ボランティアが唄等を披露。認知症カフェには利用者も参加。小中学校が近くにあり、散歩して野球の練習等を眺めることもできるとのこと。早いリズムに合わせて踊り手が力強く奔放な踊りを披露する(歌舞伎仮名手本忠臣蔵五段目の山賊「定九郎」と爺ちや「与市兵衛」がコミカルな寸劇で観衆を沸かせる)願人踊りには連れ立って出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	いつでも認知症の相談に乗れるよう見学や窓口を設けている 管理者は町の介護保険運営委員等として、町の会議に出席するなど地域への貢献をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではホーム内の現状報告を行い、たくさんの意見やアドバイスを頂いている 頂いたアドバイスを大切にサービスに活かしている	家族、民生児童委員、教育委員会委員、老人クラブ、認定こども園、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、障害サービス事業所、更には消防、警察が出席しており、ホームが関係機関の情報交換の場となっている。出席者はホームの運営委員会に参加することを楽しみにしており、「何かあったら呼んでくれ、助けるから。」との心強い言葉があったとのこと。会議当日には、利用者と同じメニューの昼食を参加者に提供するとのこと	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居相談、空き情報等も地域と連絡を取りながら進めている	毎回の運営推進会議への出席の他、生活保護受給者が2ユニットで5名いるため、半年に一度の担当者訪問時や必要時に連絡調整を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないようマニュアルがあり、職員も理解してケアを行っている 身体拘束の適正化会議や、自己チェックを行うことで、身体拘束をしないケアを意識できるようにしている	3か月に一度、虐待身体拘束チェック表を活用し、適正化委員会において身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。離設傾向の高い利用者に対し、今まで様々な代替策の検討等試行錯誤を重ねてきたが、A棟の玄関は始終施錠している実態にある。	今後共、玄関の施錠について、代替策等の検討を継続するよう期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のマニュアルがあり、職員も理解してケアを行っている 身体拘束の適正化会議の時に、一緒に虐待についてもチェックを行い、何が虐待か意識することで、虐待の防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	マニュアルは準備しているが、職員全員が理解し活用できるとは言えない 実際、入居者の中に利用している方もおらず、身近ではないこともあり、理解と活用が進んでいない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行っている 解約に至る場合は嘱託医の説明と共に、居宅支援事業所のケアマネージャーを紹介する等今後の対策の相談に乗っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナウィルスの影響で、ご家族と入居者様の面会は制限されたが、職員に限られた時間の中で出来る限り、意見を聞くよう努め、普段の会話から、入居者の要望なども聞き取れるようにしている	「温故知新」と銘打った広報「樺」が毎月発行され、数多くの日常の写真が紹介されている。小規模であることがとても家庭的で利用者も生き生きしていると家族から好評である。家族からの要望は記入し共有することで、対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り、月1回の職員会議等で職員からの意見を取り上げ、話し合い、必要に応じ対応している	トイレでの立ち上がりにしっかりした手すりが必要との要望に、早速丈夫な手すりを整備している。浴室のシャワーヘッドもスタッフの要望で交換。同じくスタッフの発案で汚れを拭きとることが出来るトイレマットを試験的に採用。Wi-Fi環境を整え、利用者の創作活動のアイデア検索に一役買っている。有給休暇や勤務交代を活用しやすい職場であり、職場定着率も高い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給休暇をとれるようにし、極力時間外労働をしないように努めている 又、資格取得等の意志がある職員には研修時の勤務の調整等を行うと伝えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	以前から準備している参考書等のほかに、2ヶ月に1度届く情報誌などを、情報の更新や、入居者様のレクや体操などに生かしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度はコロナウィルスの影響で、研修などが中止となり、交流の機会が持てなかった		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを利用して頂く前に事前面談を行い要望を確認している また見学等で施設内の様子を見ることが可能		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コロナウィルスの感染予防のため、事前に連絡いただき、感染対策をして見学や相談を行うようにしている		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人を尊重し共に支え合う暮らしを大切にしている ホームの理念でもある		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウィルスの影響で、面会は制限されたが、月次報告書等で日々の状況を伝え、必要に応じて電話などで状態を伝えるなどご家族と一緒に支援していけるように努めている		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウィルスの影響で、ご家族の面会も制限される中、ご家族以外の方との面会は全く行っていないが、電話での連絡や、ホームに来られた方には、職員より状態を伝える、ご本人に来られた方のお話を伝えるなどの支援はしている	コロナ禍以前は、訪問した近所の方が居室でくつろげるよう、お茶やおやつを提供していた。知り合いと毎週車で出かける利用者もあり、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご本人の状態によっては難しいこともあるが、利用者同士が出来る限り関わり合い、支えあえるような関係を築けるよう、支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院継続の場合、他施設へ移動した場合はサービスが終了していても、できる限り入院時の洗濯や、不足品の補充、病院とのやり取りの窓口になるなど、臨機応変に対応している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普通の会話、ご家族、ご友人からなるべく情報を集め支援に活かせるよう努めている	ミシンや編み物が趣味で自身で毛糸の下ズボンを作成する程の腕前を持つ利用者もいる。冬場は編み物、温かい時期はミシンを楽しんでいる。再利用の布やタオルで布巾や雑巾をホームのために作ってくれることもあるとのこと。近隣住民やスタッフ家族から山菜をもらおうと、下ごしらえは利用者が手伝ってくれる。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族等から情報収集している。ご友人の面会時にも情報を頂くようにしている。また今まで関わっていたサービス事業者の方からも細かな情報を頂くようにしている		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月1回の職員会議、毎日のミーティング等ご本人の状態に合わせ、柔軟に対応するようにしている		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会ができないが、電話や、ホームに来られた時にご本人の状態を伝え、要望などを確認し、職員会議やミーティングでの職員の意見、訪問診療時などの医師の意見等を参考に本人の現在の状態にあった計画作成が出来るように努めている	前回の評価結果を踏まえ、長期目標と短期目標が、援助目標として1本化されている介護サービス計画表の様式を、基準解釈通知等を参考に再検討したが、使い慣れた今までの様式で継続することとしている。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	基本的にケアプランに沿った記録ができるような日誌になっているが、状態の変化や細かな気づき等を記録して情報を共有し、計画の見直しに活かせるように努めている		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	基本的にご本人の希望を取り入れ出かける事ができるよう支援している(美容院、買い物、外食等)が、今年度はコロナウィルスの影響で、あまり外に出ることができなかった		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に嘱託医と連携し希望に沿うよう確認をとっているので引き続きかかりつけ医にかかる事が可能	近くの内科医が週交代で毎週各ユニットへ訪問診療に来てくれ、相談しアドバイスをもらっている。嘱託内科医が病院と連携することで、適切な医療が受けられることを可能にしている。通院付き添いを1対1にすることで、待ち時間等の不安を解消している。ホームかかりつけ薬局の存在が、一包化や配達、相談をスムーズにしている。家族の希望する薬局があれば優先している。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はいないがいつでも嘱託医、協力病院との連携が取れるようにしている		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはできる限り、今後の治療方針を確認している。嘱託医のほうから事前に医療情報が提供されている。基本情報等ご本人の入院前の状態などの情報を提供している		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にも説明するが状況に応じての対応方針をご家族と話し合う。嘱託医との相談、説明も合わせて行っている	出来る限りホームで支援する意向である。入居時に契約書に基づき説明し、重度化した際には看取りの指針を基に、家族、医師、ホームで話し合い対応している。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるが、職員全員が不安なく対応できるかは課題もある		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルがあり避難訓練等でその都度確認しているが、職員全員が不安なく対応できるかは課題もある	町の給水ポンプが停電時に機能停止に陥るとい地域の実情があり、停電時に備え常時数多くの水を入れたペットボトルを備えている。訪問当日、ホームの電気工事で配電を停止したことを機に、停電時を想定した調理訓練や断水時のトイレの流し方を訓練したとのこと。2ユニットの調理場はガス調理器と電磁調理器に分かれており、停電や地震の際にも調理が出来る利点がある。年2回の避難訓練を実施しており、ホーム長や管理者が目と鼻の先に住んでいることや、消防署が近いことのほか、町の防災無線も整備されるなど、心強い点が多々ある。比較的水害の心配のない区域である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々を尊重し暖かな対応ができるよう心掛けている	理念についての話し合いを2月に実施した。 1、相手を知り、相手を尊重する。2、出来る事を見つけ、自分で行えるようにする。3、相手のペースに合わせて援助を行う。の3項目を加え、理念を編纂した。一人ひとりの尊重とプライバシーの確保を確認し、職員に周知するための機会となった。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく自己決定できるようにしている 難しい場合は選択できるように心がけている		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	すべてを優先する事は難しいがなるべくゆったりと個々のペースに沿うよう支援している		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の選択に任せているが場にそぐわない時や気温にそぐわない時はさりげなく支援している お誕生日や外出等そのシーンに応じて配慮している		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に応じて無理なくできる範囲でお手伝いをして頂いている 食事やおやつ等作り方を職員が教わりながら一緒に行う事もあるが、ADLの低下もあり、以前より難しくなっている	利用者が大好きなだまこ餅は年数回食しており、つぶしや丸めを利用者が行っている。ハタハタのしょつつる鍋は恒例となっているほか、ホームの畑で収穫されたサツマイモや枝豆が食卓を彩る。山菜も豊富な地域であり、筍やみずの皮むきが利用者の役割となっている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を記録している 食べられない物は代替、不足の場合はおやつ等で補食している 個々に合わせた食事形態にしている		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアもしくはうがいの声かけをしている 義歯は洗浄剤を使用している 自歯の方が増え、拒否されない方については、仕上げ磨きや、歯科医の定期健診で口腔内の健康が保てるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄能力、パターンに応じた支援をしている ケア用品も時間帯や排泄量に合わせて対応するようにしている 状況に応じ、おむつをしていてもトイレでの排泄を支援するようにしている	退院時にオムツを使用していたが、思ったよりも元気になり、トイレでの排泄までに変化した利用者もいるとのこと。オムツを使用しているも、立位や歩行可能な方は、出来る限りトイレで排泄出来るよう取り組んでいる。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品、食物繊維の摂取、運動、マッサージ等の対応をしている 個々に応じて実施している		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴はこちらに合わせてもらっていることが多いが、時間帯や入浴方法等なるべく希望を取り入れたり、場合によりシャワー浴を行ったりしている	浴室はポカポカと温かく、思わず入りたくなる衝動に駆られる程。肌が弱い利用者は家族が持参した柔らかいスポンジを使用する等して対応している。順番を気にする方の要望に配慮し、調整をしている。最低でも週に2回は入浴出来るよう支援している。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度、湿度、明るさ、音等に配慮しながら巡視している 寝具の確認や眠れないときはおやつやホットミルクの提供もしている		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から頂いた個人個人の薬の説明書をファイルにし、いつでも確認できるようになっている また嘱託医やかかりつけ薬局とも連絡を取り、理解と確認に努めている		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	なるべくみなさんと楽しく過ごせるよう、レクリエーションや行事、外出等を計画し参加を促している 趣味に関しても楽しめるよう支援している		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なるべく希望に沿うようにしている また可能であれば、ご家族やご友人にもご協力頂き外出できるようにしているが、今年度はコロナウィルスの影響で、施設以外の方との外出は基本的に行っていない	男鹿水族館、大森山動物園、混み合わない時間帯である夕方を狙っての大瀧村菜の花ロード、五城目町の盆城庵の紅葉、上小阿仁湖と萩形ダム等々、ドライブや花見を楽しんでいる。散歩コースで小学校や中学校の生徒の様子を間近で眺めることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にホーム内ではお金を持たないようにしているが、希望によりご家族と話し合い所持している方もいる 外出時など希望される方はお金を所持し、買い物ができるよう支援している		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の要望に沿って支援している		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度、光、音等の管理をしている 行事や手工芸には季節感あるものを取り入れている 季節の花を飾ったり、季節の話題で会話を楽しむなど季節を感じる事が出来るように努めている	広い居間は、テーブルとテーブルの間を車椅子が楽に通れる程である。各ユニット共に乾燥室が整備されている。スタッフルームも同様に畳となっている。除菌や掃除が行き届いていると家族から好評である。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2棟をお互い行き来できるので気の合った方とお茶を飲んだり談話したりする方もいる 限られたスペースではあるが、ソファを置いたりすることで思い思いに気に入った場所できつろぐ様子が見られている		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険の無い範囲でなるべく馴染みのものを持ってきて下さるようお願いしている	和室と洋室があり、和室の障子がとても落ち着いた趣である。転倒予防にジョイント式マットを採用する等、安全で過ごしやすい環境を整えている。居室を間違えないよう工夫を凝らす等、様々な試行錯誤をしながら居心地よく過ごせる配慮がなされている。。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに飾りを付ける、色分けする、なじみのある印をつけるなど、わかりやすくする工夫をしたり、一人一人の状態に合わせ、声掛けや見守りを行っている また、認知症が進んだ方でも手ぶりや身振りなどでなるべく自分でできるよう支援している		